Athena Sources in Women's History

イギリス女性年鑑1899-1916

The Englishwoman's Year Book and Directory, 1899–1916

解説：河村貞枝（流通科学大学教授、京都府立大学名誉教授）第3回配本時に刊行

4回配本
全17巻

Part 1: 1899–1903（5巻）
ISBN 978-4-86340-046-7・c. 2060 pp.・2010年9月刊行・定価(¥95,000+税)

Part 2: 1904–1907/8（4巻）
ISBN 978-4-86340-047-4・c. 1810 pp.・2011年6月予定・定価(¥84,000+税)

Part 3: 1909–1912（4巻+別冊解説）
ISBN 978-4-86340-048-1・c. 1770 pp.・2012年6月予定・定価(¥84,000+税)

Part 4: 1913–1916（4巻）
ISBN 978-4-86340-049-8・c. 1960 pp.・2013年6月予定・定価(¥84,000+税)

女性の職業機会の情報紹介を目的として創刊され、更に扱う情報が拡大して社会の中で活躍する女性のためのあらゆる情報の掲載が定着した *The Englishwoman's Year Book*。女性にとっての最も重要な情報源となった本書の 20 世紀刊行の全点を復刻!

Athena Press

CONTENTS (no Contents published in 1899 ed., based on 1900–1903 editions)

Calendar

Index

Index to Advertisements

Education: University Education • Degrees and Distinctions • Examinations • Higher Education of Women in Ireland • Secondary Education of Girls and Lists of Schools • Co-education • Kindergartens and Training • Technical Education • London School of Economics, and Commercial Education • Evening Colleges and Schools • Modern Languages • Reading and Libraries • Educational Periodicals and Books • Addresses of Educational Institutions

Employments and Professions: The Employment of Women • Accountants • Book-keeping • Agriculture, Gardening, and Dairy Work • Civil Service • Dental Surgery • Dramatic Profession • Dressmaking • Florists • Hairdressing • House Decoration • Hygiene • Indexing • Lecturing • Librarians • Matrons • Needlework • Children's Nursing • Sick-Nursing • Pharmacy • Photography • Physical Training • Poultry Keeping • Printing • Rent Collecting • Sanitary Inspectors • Secretaries • Spinning, Weaving, and Home Arts • Teaching • Typewriting • Wood Carving • Notes on Various Employments • Employment Agencies

Industrial: Factories and Workshops • Factory and Workshop Legislation and Inspection • Board of Trade (Labour Department) Correspondent • Home Work • Domestic Service • Agriculture • Fishcuring and Fisherwomen • Laundry Work • Mining • Shop Assistants • Waitresses and Barmaids • Trade Unionism among Women • Co-operation • Societies Interesting Themselves in Industrial Questions Concerning Women • Record of the Year • Bibliography

Medicine: Medical Training • List of Medical Women with British Diplomas • List of Medical Institutions in Which Registered Medical Women Hold Appointments • Medical Women in India

Science: Women's Work in Science during the Year • Principal Scholarships for Science Attainable by Women • Colleges, etc., at Which Woman Can Study Science • Women Science Lecturers and Demonstrators • Women Museum Curators and Assistants • Scientific and Learned Societies of Which Women May Be Members

Literature: Story-Writing • Journalism • Colonial Journalism for Women • Literature and List of Women's Books during the Year • Papers and Magazines for Women and Girls • Societies

Art: Art Exhibitions, London and Provincial • Art Schools and Associations • Minor Arts • Books for Artists • Picture Galleries • Periodicals • Charities

Music: The Musical Season during the Year • Schools of Music • Examinations • Women's Orchestras • Musical Agents and Concert Directors • People's Concert Society • Musical Magazines

Sports, Pastimes, Animals, and Social Life: Sports • Pastimes • Animals • Clubs for Ladies • Residence for Ladies in London • Housekeeping • The Royal Family and Ladies of Royal Households • Orders and Decorations • Peeresses • Civil List Pensions to Women • Places of Interest and Amusement in London and Suburbs • Travelling and Holidays • Thrift and Friendly Societies

Public Work: Historical Summary • Legislation during the Year • Public Offices Filled by Women • Registration and Voting Qualifications • Councils and Poor Law • School Board and Board School Managers • Societies for Local Government • Women's Suffrage • Petitions, Canvassing, Public Speaking, Rules for Conferences and Committee Meetings • Political Associations • Books and Periodicals

Philanthropy: Women's Associations for Progress and Social Reform (Non-political) • Charity Organisation Society • Settlements • Emigration • Ladies' Associations for the Care of Friendless Girls • Girls' Clubs • District-Visiting • Accounts of Societies and Institutions • Duties of Officers of Societies • Notes on Laws Affecting Women and Children • Books • General List of Societies

Temperance: Introductory • Women's Temperance Societies • Young People's Temperance Societies • General Temperance Societies

Homes and Charitable Institutions: Homes and Societies for Children and Girls • Boarding-Homes for Women • Homes for Gentlewomen and Governesses, and Pensions for Women • Hospitals, General, Consumption, Cripples, Nervous Diseases • Homes for the Dying, the Incurable, Inebriates, the Blind, Deaf Mutes, the Feeble-Minded • Convalescent Homes • Nursing Institutions • Rescue Work and Homes • Societies and Homes for Foreigners in London • Jewish Charities, Societies, Books, etc. • City Companies' Charities

Religious Work: Position of Women in Church Government • Foreign Missionaries • Missionary and Deaconess Training Institutions, and Societies of Religious Workers • Women's Work in the Church of England • Anglican Sisterhoods • Church of England Deaconesses • Roman Catholic Religious Orders of Women • Religious Instruction • Religious Societies • Social Purity

Events of the Year

Obituary

Directory

The Englishwoman's Year Book and Directory の復刻に期待する

——ステロタイプではない多様な女性の実像に迫りうる貴重なアーカイヴ——

河村 貞枝●流通科学大学教授/京都府立大学名誉教授

ヴィクトリア時代後半から20世紀にかけての時期は、イギリス女性に関するさまざまな定期刊行物が硬軟取り混ぜてまさにオンパレードで刊行された。なかでも今回復刻のジャーナルは各方面からとりわけ強く求められていた重要稀覯文献である。年鑑 *The Englishwoman's Year Book and Directory* は、第一に女性(当初は主として「ジェントルウーマン」が対象)のための職業機会の情報紹介、次いでは女性の(フェミニストに限定しない)結社、クラブなどのディレクトリである。ラフないい方をすれば、やはり20世紀の諸巻が、非常に有用なレファレンス・ワークであった。

したがって今回復刻されるのは、ニュー・シリーズの1899年から1916年であるが、同誌は1881年にルイーザ・マライア・ハバードによって創刊された。その刊行期間はイギリス・フェミニズム運動の機関誌であった *The Englishwoman's Review* (*EWR*)と重なっており、*EWR* 誌が幕を閉じる1910年までほぼ毎年 *EWR* 誌で書評紹介されていたから、フェミニズム運動に関わる *EWR* の読者にも利用されていたことであろう。

EWR の創刊者とその歴代の編者たちと同様に、*The Englishwoman's Year Book* のハバードとその後継編者たちも間違いなく自ら生計の資を稼ぐ必要のない境遇であったが、切実に有給雇用を必要とする「困窮したジェントルウーマン」、あるいは無為な生き方に飽き足りなくて「働きたい」女性のための職業(プロフェッション)の雇用機会を拡げていくための運動に自らの生涯を投入したのである。「ヴィクトリアン・ウーマン」といえば、何よりも性別役割分業観を自ら体現した有閑女性と見なされがちである。現実にはそのようなステロタイプによる図式的表象は間違いではないが、その類型に当てはまらない、そして極めて「利他的な」女性たちの姿が *The Englishwoman's Year Book* の行間から浮上してくるのである。

ハバードの1906年11月末の急死に際して、*EWR* 誌はかなり長い追悼記事を載せている。ハバードは、同性たちの安寧のために長きにわたって精力的に奮闘し、その結果1898年に倒れて、オーストリアに転地して健康回復を図っていたが、その地で急逝したのであった。その1か月前に彼女から恩恵を被った女性たちや同志がハバードへの愛と感謝の念を表すための企画を考案中であると、『デイリー・クロニクル』紙が報じていた矢先の訃報であった。同追悼記事には、ハバードが「他者のために」、「自らの名声のためではなく」、「アンセルフィッシュ」に行動していたことを若い世代の読者に縷々語っている。また、『ザ・タイムズ』にもハバードと次の編者のエミリ・ジェインズの死亡記事が掲載され、前者のものは当時の女性に対しては珍しく長文で感動的な追悼文である。

ところで、同誌がアティーナ・プレスによって、数回の配本に分けて丹念に復刻されることは、購読者・購入機関にとっては有難いことであろう。数回に分けての配本は、同社の慎重で丁寧な復刻作業によるのであるが、購入する側でも入手しやすくなる。現代の読者が、本誌が実際に編集刊行されていた、またそれを利用した当時の女性たちと同じ場に身をおき、彼女たちの思いに肉薄するには、マイクロフィルムも昨今のオンライン版も「復刻」にはかなわないであろう。さらに19–20世紀の世紀転換期の、廉価を追求する定期刊行物には、「酸性紙問題」がつきものであった。女性参政権運動史研究に携わってきた筆者は、個人的資力を超えた運動の貴重な機関誌を現物で全巻購入し、それが酸性紙であったため、ページを繰ることもこわごわで事実上使用困難となってしまい、宝の持ち腐れにまいってしまった経験がある。今回の復刻原本も刊行の時期からして、一部そのおそれがあるだろうと推測する。また、マイクロフィルムの利用も高額な点以外に多くの難点があり、まさに「復刻」にまさるものなし、である。過去の女性雑誌を繙くことの楽しさを味わったり、いろいろな表象分析を試みたりしながら、過去との対話に専念できることを心から期待したい。

「男たちの物語」を骨抜きにする

井野瀬 久美恵●甲南大学教授

The Englishwoman's Year Book(*EWYB*)は、文字通り、イギリス女性によるイギリス女性のための情報誌である。創設者ルイーザ・マライア・ハバートは、ミドルクラス出身の女性の雇用を促進する民間団体を立ち上げ、活動するなか、何よりも情報の重要性を意識したという。彼女のこの思いを反映してだろう、*EWYB*は、女性に開かれた中・高等教育の状況や試験、奨学金等の情報、教職や看護婦、タイピスト、会計士、司書といった女性の新たな専門職や雇用、そのために求められる技能の育成・訓練の施設やその中身、医学や科学、芸術や音楽と関わる学校や職業、女性の手になる各種出版物、福祉・チャリティと関わる諸活動、さらには娯楽や趣味にいたるまで、実に多種多彩な情報にあふれている。

このたび復刊される1899年から1916年という時期は、南アフリカ戦争(第二次ボーア戦争、1899–1902)にはじまり第一次世界大戦に至る、まさに「帝国の時代」であった。*EWYB*は、拡大と再編に揺れたこの時期の帝国空間を見のがさず、女たちの「居場所探し」のすそ野を巧みに広げている。たとえば、「女性のための植民地ジャーナリズム(Colonial Journalism for Women)」という項目にはこんなことが書かれている。

「一般のジャーナリストとは違い、植民地ジャーナリストはスペシャリストかつビジネスマインドを持ち合わせていなければならない。イギリス本国の政治が植民地にどのような影響を与えるか、議会討論を日々フォローする必要があるし、特派員となった場合には、植民地省を定期的に訪問して情報をたえずアップデートし、植民地関係のクラブや組織へも頻繁に出入りすべきである。」

こうした記述のなかで、ヴィクトリア朝女性の理想とされてきた「家庭の天使」像は確実に解体されている。代わって浮上してくるのは、ジェンダーの差以上に能力の問題——いや、教育や雇用の問題をそうやって捉え直そうとする書きぶり自体が、女性の居場所を開こう(拓こう)とする*EWYB*関係者のひたむきさの賜物なのだろう。

と同時に、植民地ジャーナリストとして女性が成功する秘訣に次のような助言が添えられていることは興味深い。「イギリスの一般紙からの転載は絶対に避けること。植民地の読者はすべて、本国で発刊される新聞を読んでいるのだから。ただし、厳密に植民地のトピックを扱いながらも、そこに故郷便り(home letter)のような雰囲気が醸し出されるよう、努めることが肝要である。」(引用はすべて1903年版より)

なるほど。*EWYB*は、徹頭徹尾、女性目線で書かれた情報誌なのだ。そのまなざしは、われわれが知る「男たちの物語」をどのように骨抜きにしているのだろうか。

20世紀初頭の女性の教育とキャリアを知るための貴重資料

香川 せつ子●西九州大学教授

ヴィクトリア朝後期の女子教育改革と高等教育機会の拡大は、イギリス女性の歴史に新しい局面を切り開いた。教師や看護婦などの伝統的職業に加えて、医師や公務員、建築士、会計士などの専門職に向かう道が開けたのである。*The Englishwoman's Year Book and Directory*は、高学歴女性の職業機会の拡大をめざして、1881年にルイーザ・マライア・ハバードによって創刊された。以後第一次世界大戦中の1916年までほぼ毎年刊行され、キャリアをめざす女性たちに有益な情報を発信し続けた。

しかしながら、フェミニストの抱負とは裏腹に、1919年に性差別廃止法が制定されるまで、専門職への女性の参入は困難を極めた。その結果、*The Englishwoman's Year Book*は、職業開拓の枠を越えて、女性が活躍できる社会的空間についての情報をくまなく収集して掲載し、女性団体の協働とネットワーク化の中心として機能することとなった。

今回復刊される1899年から1916年までの各巻を繙くと、女性の運動家たちが持ち寄った情報の多彩さに驚かずにはいられない。教育の分野でいえば、中等・高等教育はもとより、幼児教育から成人教育まであらゆる教育機関と職業訓練の機会を網羅して、科学、文芸、美術、音楽、スポーツなど様々な領域で女性が才能を開花させることを称揚した。他方では、女性の参加する社会改良団体や、高齢化し経済的困窮に陥った女性のための救済施設のリストなど、慈善活動に関する具体的情報も掲載されている。

*The Englishwoman's Year Book*の膨大な頁が伝えるのは、激動の時代をひたむきに生きた女性たちの鼓動であり、チャンスとリスクが隣り合わせとなったミドルクラス女性の生活の光と影である。19世紀末から20世紀にかけてのイギリス女性史、ジェンダー史、社会史研究にとって貴重な史料であることは間違いない。

ゆりかごから墓場まで、賢く豊かに生きるためのガイド

窪田 憲子●都留文科大学教授

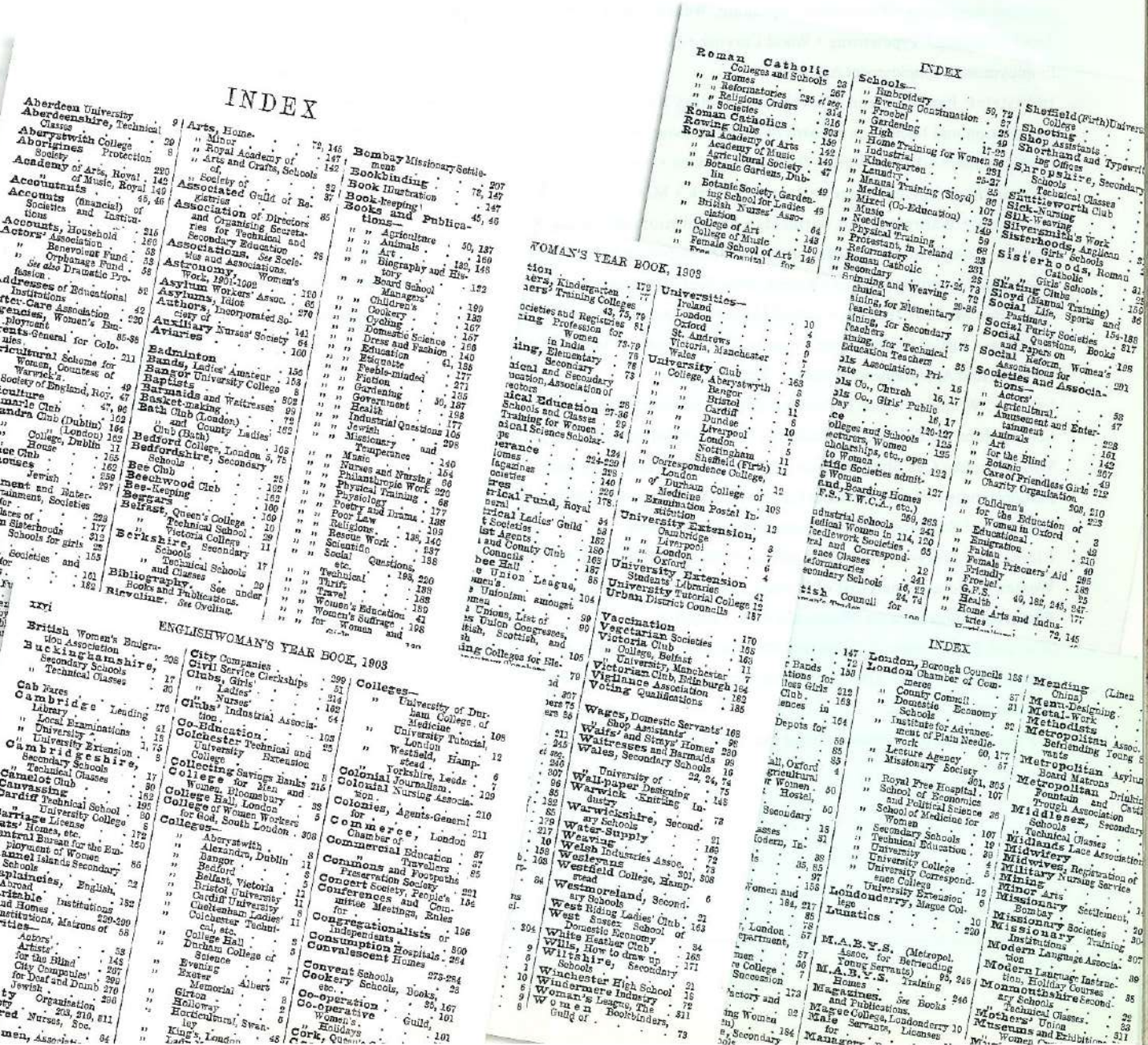
仮に明治時代の日本で、女性が地方から東京の学校に入学したいと思ったとき――たとえば九州の臼杵から上京し、明治女学校に入学した作家の野上弥生子のような女性の場合だが――、どのような学校があり、そこで何を学べ、どこに住むことが可能か、という情報は、知人のつてを頼りの、極度に限られた範囲でしか得られなかったことであろう。だが同じ頃のイギリスでは、そのような問題はたちどころに解決した。社会のあらゆる分野にわたって、女性たちに必要と思われる情報を提供した年鑑が発行されていたからである。

この年鑑 *The Englishwoman's Year Book* の 1903 年版を繙くと、たとえば文学関係については、作家になりたいと思っている女性に向けてのガイダンス――まず 3000 語程度の短編を書き、それから 6 万語程度の長編を書くのがよい、作家協会への入会をお勧めしたい、など具体的な助言に満ちている――に始まり、ジャーナリズムやとくに植民地でのジャーナリズムに携わる場合の助言が続く。次に、前年度に出版された小説、児童文学、伝記、歴史、園芸に及ぶ 100 名近い女性作家の著作の短評があり、さらに分野別の膨大な著作リストや、女性雑誌や少女雑誌のリストが掲載されている、という具合になっている。

その他、病院については産院の紹介から、子どもの病院、末期患者のための病院の紹介まであり、レジャーについては、世界の主要都市への運賃、ガイドブックの紹介などがあり、さらに郵便のおおよその到着日数まで記したリスト、国会への請願書の書き方等々、生活するのに、あったら便利、ぜひ教えてほしい、と思うような情報に満ちている。

本書は、女性が情報から遮断されていた長い歴史を変革し、独自のネットワークを形成するのに、大きな促進力になったことは間違いないであろう。女性読者のそのような情報に対する渇望と、女性たちにできる限りの情報を提供し、幅広い人生の機会を視野に入れてほしいという編集者とその協力者たちの熱い願いがにじみ出た本であるといえる。

（推薦者は五十音順に掲載）



The Englishwoman's Year Book and Directory について

The Englishwoman's Year Book and Directory（以下 *EWYB*）は、ルイーザ・M・ハバード（Louisa Maria Hubbard）によって1881年に創刊され、1916年まで36年にわたってほぼ毎年定期的に刊行されたものです。1907年から1908年までの2年間は1巻しか出版されなかったので全体では35巻になります。*EWYB* の最大の目的は女性の雇用を促進させることでしたが、刊行が続くうちに雇用問題に限らない、女性に関わるあらゆる局面に対しての具体的な知識や助言を載せたものへと変貌し、雇用や教育から、スポーツ、レジャーに至るまであらゆるジャンルを扱って、女性にとっての最も重要な情報源となっていきます。

ハバードは、女性のためになる最も効果的な方法は、女性たちに開かれているさまざまなチャンスについての情報を伝えることだと強く考えていました。1870年代のうちに *A Guide to All Institutions for the Benefit of Women* と *The Year Book of Women's Work and Guide to Remunerative Employment* を刊行していた彼女は、それらをこの年次刊行の *EWYB* へと発展させたのでした。

これらは、女子労働の新しい分野を広めて、それまでの女性の職業にまとわりついていた悪印象を取り払う先駆的なもので、女性の社会的地位に変化をもたらした極めて重要な刊行物でした。その記事は女性のさまざまな新しい雇用機会—具体的に例をあげれば小学校教師、保母、庭師、タイピストなど—について積極的に取り上げ、女性にとっての機会拡大を目指すあらゆる計画、運動、団体や機関の設立について提起していました。ハバードはまたThe National Union of Women Workersの設立に関係した人物でもありました。

EWYB は1881年から1898年までがハバードの編集で、この間 Hatchards 社（1881–90）と Kirby 社（1891–98）から出版されました。1898年に彼女が倒れてしまったため、この後刊行体制が変化します。1899年から出版社が Adam and Charles Black 社に移り、"New Series" とされ、編集者は1899年から1908年までをエミリ・ジェインズ（Emily Janes）、1909年から1916年までをジェラルディーン・E・ミトン（Geraldine Edith Mitton）が務めました。アティーナ・プレスでは、この1899年に開始された "New Series" について復刻刊行していきます。

New Series 最初の編集者ジェインズは未成年女性保護に関わる初の法改正キャンペーンやほかの慈善事業の取り組みによってよく知られた女性福祉活動家で、1891年から女性労働者の組織を連携するためにハバードが提唱した The Central Conference Council に参加、1895年からはやはりハバードが設立に関わった先述の The National Union of Women Workers の運営に積極的に携わりました。

1909年から編集を務めたミトンは執筆家、編集者で、A. & C. Black 社のスタッフに加わり、この *EWYB* をはじめ *Who's Who* など多くのレファレンス関係を担当、のちには多くの旅行関係や地理的関係の本を書き、児童書などにも取り組んだ人物です。

Athena Sources in Advice Literature

次期刊行予定

The Early Victorian Conduct Books of Mrs. Ellis

ISBN 978-4-86340-064-1 • 全4巻 • c. 1520 pp. • 2011年11月刊行予定 • 予価（本体78,000円＋税）

別冊解説：山口みどり（大東文化大学准教授）

ヴィクトリア朝初期の中流階級の女性向けアドバイス書として定評のあるエリス夫人の4冊に別冊解説を付して復刻。現在でもヴィクトリア朝時代における女性の保守的な見方として活用されている資料。

【発　行】
Athena Press
株式会社 アティーナ・プレス

〒112-0011　東京都文京区千石4-33-18
Tel：03(3946)2117　Fax：03(5977)8026
E-mail：eigyo@athena-press.co.jp
http://www.athena-press.co.jp

【取扱書店】